

令和4年度庄原市複式指導研修会

令和4年11月9日(水) 庄原市立峰田小学校

複式授業における指導の在り方を研修することを通して、児童生徒が主体的に学び合う学習を目指した授業改善を図ることを目的に、研修会を行いました。

【研究授業】第3学年 算数科「数の表し方やしくみを調べよう」
第4学年 算数科「四角形の特ちょうを調べよう」
授業者：庄原市立峰田小学校 教諭 駒木 路世

【協議・講話】「主体的に学び合う学習を目指した授業づくり
～複式学級 算数科の授業を通して～」
庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 片山 博子



- 庄原市立峰田小学校の算数科の複式授業を参観し、「主体的に学び合う学習となっていたか」について研究協議を行った。
- 庄原市における複式学級を有する小学校は、本年度は8校となっている。複式学級の学習指導の効果を高めるには、両学年の学習段階をずらして「直接指導」と「間接指導」を適切に組み合わせることが大切である。



【グループ協議】

- 単元のゴールを児童と共有し、そのゴールに向けた授業展開となっていたことで、児童の意欲が向上していた。学習の流れが提示してあり、学習リーダーは、見通しをもちながら授業を進めることができていた。
- マス図、数直線図、位取り表等、「算数お助けアイテム」が充実しており、思考の手立てが自己選択できる、環境整備が整っていた。早く問題解決できた児童には、学力差に応じたプリント等を準備され、時間いっぱい学習に取り組むことができた。
- ペアやグループ活動の中で、教え合う等、児童同士の交流する時間がより多くもてるとよいと感じた。
- 指導者が、間接指導の際に児童の発表を聞けない時間があることに難しさを感じた。そのために、学び合いの過程をどのように残していくのが大切だと感じた。

【参加者の感想等】

- 練習問題をいつも同じ場所に用意しておくなど、日々の授業をパターン化することで、児童が自分達で安心して進めることができると感じた。
- 複式の授業を行う中で、日々感じている悩みについて、協議する時間が多くあり大変参考になった。
- 中学校には複式学級はないが、教師が直接指導する時間と生徒が考える時間のバランスをうまくとることが大切だと感じた。リーダーの育成の視点をもった授業づくり、学び合い等、生徒の実態に合わせて作ってきたい。
- 目指す児童像が明確であり、学校全体で児童を育成していく姿勢、チーム学校の取組を見せていただいた。自校でもぜひ取り入れていきたい。